

要件事項	<p><b>【海上/航空】</b></p> <p><b>通関・収納</b></p> <p>自動車通関証明書関連手続きにかかる時間外執務要請届関連業務への対応</p>
機能概要	<p>&lt;変更前仕様&gt;</p> <p>「自動車通関証明書交付申請(MTC)」業務等について、申請先税関の開庁時間(一般執務時間及び時間外常駐時間を併せた時間)外であっても申請が可能となっている。</p> <hr/> <p>&lt;変更後仕様&gt;</p> <p>「自動車通関証明書交付申請(MTC)」業務等について、申請先税関の開庁時間外に申請できないようにする。</p> <p>ただし、「時間外執務要請届(OSA)」業務等で時間外執務要請の届出をしている場合は、開庁時間外であっても届出時間帯の申請を可能とする。</p> <p>また、「自動車通関証明書交付申請(MTC)」業務にて、開庁時間外に開庁時申請の旨を登録して申請した場合、翌開庁時に申請先税関に申請を送信する機能を追加する。</p>

## 1. 変更内容

- (1) オンライン業務の新規追加/変更(業務の流れ及び業務実施可能時間帯の概要については「補足資料\_業務の流れ及び業務実施可能時間帯について」を参照)
- (A) MTC 業務、「自動車通関証明書交付審査終了(MTD)」業務、「手数料確認(MTE)」業務、「手数料領収確認(RP2)」業務及び「手数料強制消込(RPF)」業務について、時間外執務要請届業務等の対象とするために、以下の変更を行う。
- なお、RP2 業務及び RPF 業務は、MTD 業務にかかる申請の処理を行う場合のみ本変更の対象とする。
- ・時間外執務要請の届出を可能とするために、OSA 業務等に届出種別「G:収納」を追加する。
  - ・時間外執務要請届の対象となる業務について、開庁時間外に実施する場合は、届出種別「G:収納」で届出した時間帯であることのチェックを追加する。
- なお、RP2 業務については、本チェックでエラーとなった場合、翌開庁時に「手数料領収確認(開庁時自動起動)(3RS)」業務を起動する機能を追加する。
- ・3RS 業務起動前に RPF 業務を実施した場合、翌開庁時に 3RS 業務が起動しないよう解除処理を行う。
  - ・「手数料納付状況照会(IRP)」業務の出力仕様を変更する。
- (a) 自動車通関証明書関連手続き用届出種別の追加
- ① OSA 業務の届出種別に以下のコードを追加する。
    - ・「G:収納」
  - ② 届出種別 G について、OSA 業務、「時間外執務要請延長届(OSE)」業務及び「時間外執務要請届内容照会(IOS)」業務で使用できるようにする。
  - ③ 届出種別 G の場合、OSA 業務、OSE 業務の届出先について、MTC 業務で申請可能な官署であることのチェックを行う。
  - ④ 届出種別 G における、OSA 業務及び OSE 業務の業務実施可能時間帯については、既存の届出種別と同様の仕様とする。

(b) 入力者の追加

輸出入者が届出種別 G の時間外執務要請の届出ができるよう、以下の業務の入力者に輸出入者を追加する。

- ・OSA 業務
- ・「時間外執務要請延長届呼出し(OSE11)」業務
- ・OSE 業務
- ・IOS 業務

(c) 時間外執務要請届 DB チェックの追加

MTC 業務、MTD 業務、MTE 業務及び RPF 業務について、申請先税関の開庁時間外に実施する場合、OSA 業務等にて届出種別 G で届出した時間帯以外はエラーとなるようチェックを追加する。

(d) 「時間外執務要請届使用実績(収納)」DB 処理の追加

MTC 業務及び MTD 業務について、時間外執務要請の届出を使用して実施した場合、新規 DB の「時間外執務要請届使用実績(収納)」に使用実績を登録する。

(e) 開庁時手数料領収確認登録処理の追加

RP2 業務が、申請先税関の開庁時間外に起動した場合、OSA 業務等にて届出種別 G で届出した時間帯以外は、開庁時自動起動の旨を時刻起動電文 DB に登録する処理を追加する。

(f) 「手数料領収確認(開庁時自動起動)(3RS)」業務の新設

RP2 業務で時刻起動電文 DB に登録した情報を申請先税関官署の翌開庁時刻(8:30)より順次自動起動する「手数料領収確認(開庁時自動起動)(3RS)」業務を新設する。

3RS 業務については以下の仕様とする。

①チェックについては、既存の論理エラーチェック(REPS 関連 DB 存在チェック及び申請先税関宛先取得チェック)及び以下の新規チェックを実施する。

- ・REPS 関連 DB に納付済・翌開庁待ちの旨が登録されていないにもかかわらず、3RS 業務が自動起動した場合、エラーとなるようチェックを追加する(翌開庁時自動起動中かつ 3RS 業務起動前に、RPF 業務が実施された場合、本チェックにてエラーとなる)。

②3RS 業務起動時に、REPS 関連 DB の納付状況に「納付済」の旨を登録し、自動車通関証明書を発給する「自動車通関証明書交付出力(1MT)」業務を起動する。

(g) DB 保存期間の追加・変更(RP2 業務・3RS 業務)

①RP2 業務(開庁時間外かつ時間外執務要請の届出時間外)が起動した場合は、以下の仕様とする。

- ・3RS 業務または RPF 業務が実施されるまでの間、REPS 関連 DB のレコードが消えないようにする。
- ・1MT 業務が起動するまでの間、自動車通関証明書発行 DB のレコードが消えないようにする。

②3RS 業務が起動した場合は、6 日間(日祝除く)後に REPS 関連 DB を削除する。

(h) 「手数料納付状況照会(IRP)」業務の出力内容の変更

「手数料納付状況照会情報(CAL060)」の「納付状況」に「WT:納付済・翌開庁待ち」を追加する。また、既存「納付状況」の名称を以下の通り変更する。

RP:納付済み→納付済

FC:強制消込済み→強制消込済

CH:変更済み→変更済

また、IRP 業務照会時、「手数料納付状況照会情報(CAL060)」に以下の通り出力する。

①RP2 業務(開庁時間外かつ時間外執務要請の届出時間外)後に照会した場合

納付状況「納付済・翌開庁待ち」

領収確認年月日「RP2 業務起動日」

領収年月日「出力なし」

②3RS 業務起動後に照会した場合

納付状況「納付済」

領収確認年月日「RP2 業務起動日」

領収年月日「REPS が領収を確認した年月日※」

※2025年7月1日に納付し REPS が領収を確認後 RP2 業務が起動。その後、2025年7月2日に 3RS 業務が起動した場合は、2025年7月1日を出力

③RP2 業務(開庁時間外かつ時間外執務要請の届出時間外)後、3RS 業務起動前に RPF 業務で強制消込した情報照会した場合

納付状況「強制消込済」

領収確認年月日「RP2 業務起動日」

領収年月日「REPS が領収を確認した年月日(RPF 業務で入力した領収年月日)」

④RPF 業務で強制消込を実施後、RP2 業務が起動※した情報を照会した場合

※REPS に手数料を納付したにもかかわらず、RP2 業務が起動せず、RPF 業務で強制消込を実施。その後 RP2 業務が起動したケースを想定した既存仕様。

納付状況「強制消込済」

領収確認年月日「RP2 業務起動日」

領収年月日「RPF 業務で入力した領収年月日」

既存では領収確認年月日を出力していないが、RP2 業務起動日を出力する仕様に変更する。

また、MTD 業務以外の REPS に手数料を納付する申請(汎用申請等)も同様の仕様となる。

(B) MTC 業務にて、時間外執務要請を届出せずに申請先税関の開庁時間外に申請する場合、開庁時申請の旨を登録できるようにするために、以下の変更を行う。

- ・開庁時申請を可能とするために、MTC 業務に「申請条件」を追加する。
- ・「自動車通関証明書交付申請情報照会(IMT)」業務の照会結果及び帳票に「申請条件」を追加し MTC 業務での登録内容を確認可能とする。
- ・MTC 業務で「申請条件」に「K:開庁時申請の登録」を入力した場合、翌開庁時に「自動車通関証明書交付申請(開庁時自動起動)(3MC)」業務を起動する機能を追加する。
- ・3MC 業務起動前に「自動車通関証明書交付申請事項登録(MTA)」業務または MTC 業務を実施した場合、翌開庁時に 3MC 業務が起動しないよう解除処理を行う。

(a) 入力項目・出力項目の追加

①MTC 業務の入力項目に「申請条件」を追加し、「K:開庁時申請の登録」を入力可能とする。

②MTA 業務の「自動車通関証明書交付申請入力控情報」の画面テンプレートに「申請条件」を追加し、「K:開庁時申請の登録」を入力可能とする。

画面テンプレートの変更に伴い、以下の通り出力情報コードの枝番を変更する。

・自動車通関証明書交付申請入力控情報(変更前:CAD1120→変更後:CAD1121)

③IMT 業務の「自動車通関証明書交付申請情報照会情報」及び下記帳票の出力項目に「申請条件」を追加し、登録内容を確認可能とする。

出力項目追加に伴い、以下の通り出力情報コードの枝番を変更する。

・自動車通関証明書交付申請情報照会情報(変更前:CAD1180→変更後:CAD1181)

・自動車通関証明書交付申請情報(変更前:CAD1160→変更後:CAD1161)

・自動車通関証明書交付申請控情報(変更前:CAD1170→変更後:CAD1171)

・差戻し通知書(変更前:CAD1200→変更後:CAD1201)

・自動車通関証明書(変更前:CAD1210→変更後:CAD1211)※原本保存対象

なお、「申請条件」には、MTC 業務で登録した内容を出力するため、MTC 業務後に MTG 業務を実施した場合は、前段の MTC 業務で登録した「申請条件」を出力する。

(b) 開庁時申請にかかるチェックの追加

MTC 業務において、申請条件に「K:開庁時申請の登録」を入力した場合、以下のチェックを追加する。

①開庁時間帯に実施した場合、エラーとなるようチェックを追加する。

②開庁時申請の旨を登録済の場合、エラーになるようチェックを追加する。

(c) 開庁時自動車通関証明書交付申請登録処理の追加

MTC 業務において、申請条件に「K:開庁時申請の登録」を入力した場合、開庁時申請の旨を自動車通関証明書発行 DB 及び時刻起動電文 DB に登録する。

(d) 「自動車通関証明書交付申請(開庁時自動起動)(3MC)」業務の新設

MTC 業務で時刻起動電文 DB に登録した申請を申請先税関官署の翌開庁時刻(8:30)より順次自動起動する「自動車通関証明書交付申請(開庁時自動起動)(3MC)」業務を新設する。

3MC 業務については以下の仕様とする。

①自動車通関証明書発行 DB に開庁時申請の旨が登録されていないにもかかわらず、3MC 業務が自動起動した場合、エラーとなるようチェックを追加する(翌開庁時自動起動中かつ 3MC 業務起動前に、MTA 業務または MTC 業務(申請条件:スペース)が実施された場合、本チェックにてエラーとなる)。

②MTC 業務を実施した申請者に新規処理結果通知「\*C3MC」を出力する。

(e) 開庁時申請解除処理の追加

MTC 業務で開庁時申請の旨を登録後に MTA 業務または MTC 業務(申請条件:スペース)を実施した場合、自動車通関証明書発行 DB の開庁時申請済の状態を解除し、登録済の時刻起動電文 DB を削除する。

(f) DB 保存期間の追加・変更(MTC 業務・3MC 業務)

MTC 業務にて開庁時申請の旨を登録時及び 3MC 業務起動時は、自動車通関証明書発行 DB のレコードが消えないようにする。

## 2. 変更対象業務

### (1) オンライン業務

- ① 「時間外執務要請届(OSA)」業務
- ② 「時間外執務要請延長届(OSE)」業務
- ③ 「時間外執務要請延長届呼出し(OSE11)」業務
- ④ 「時間外執務要請届内容照会(IOS)」業務
- ⑤ 「自動車通関証明書交付申請事項登録(MTA)」業務
- ⑥ 「自動車通関証明書交付申請呼出し(MTB)」業務
- ⑦ 「自動車通関証明書交付申請(MTC)」業務
- ⑧ 「自動車通関証明書交付申請情報照会(IMT)」業務
- ⑨ 「自動車通関証明書交付申請(開庁時自動起動)(3MC)」業務※新規時刻起動業務
- ⑩ 「手数料納付状況照会(IRP)」業務

## 3. 添付資料

補足資料\_業務の流れ・業務実施可能時間帯について

## 4. リリース予定日/サービス開始予定日

### (1) AP、端末資材

AP : 2026年3月15日(日) 保守時間帯

端末資材 : NACCS 掲示板配置時

ただし、下記業務については、2026年3月15日(日)4:00

- ・MTC 業務
- ・MTA 業務(CAD1121)
- ・IMT 業務(CAD1181)
- ・自動車通関証明書交付申請情報(CAD1161)
- ・自動車通関証明書交付申請控情報(CAD1171)
- ・差戻し通知書(CAD1201)
- ・自動車通関証明書(CAD1211)